

令和4年度 畜産試験場の業務推進目標

基本目標（組織目標）

長野県行政経営理念に基づく「しあわせ信州創造プラン2.0」及び「第3期長野県食と農業農村振興計画」の最終年として研究成果を確実に発信、普及させることにより、畜産試験場が本県の畜産振興の拠点となるよう関係機関と連携し取組を進めます。

心構え

多様化、複雑化する社会環境に機敏・柔軟に対応できるよう、積極的な情報収集・共有・発信を強化するとともに、県民・畜産関係者起点の試験研究をCross Overで進める体制を構築します。

重点目標

第3期長野県食と農業農村振興計画に基づき、ゆとりと夢のある持続可能な畜産経営を実現するため、高品質な畜産物の効率的な生産と収益性が高い畜産経営の確立に向け、新たな技術の開発や高能力種畜の作出に取り組みます。

1 魅力ある畜産物の生産と多分野連携の活用を図ります。

（1）地球温暖化に対応した技術開発

- ・家畜や堆肥など畜産から発生する温室効果ガスの排出を抑制する技術を開発します。
- ・地球温暖化に適応する家畜や地鶏の飼養技術、飼料作物の育種改良、生産技術及び強害雑草防除技術を開発します。

（2）環境負荷を低減する技術開発

- ・密閉縦型堆肥化処理施設における臭気等の発生状況及び経済性を検証します。
- ・化学肥料の代替となる家畜ふん堆肥の活用技術を開発します。

（3）多分野と連携し、先端技術を活用した家畜の管理、生産性の向上

- ・AIを活用した健康診断(DX診断)、飼料診断システム等による管理省力化・高度化・生産性向上技術を開発します。
- ・近赤外線画像による飼料成分分析とリンクした飼料計算ソフトを開発します。
- ・ICTを活用した豚舎における環境の監視及び個体情報管理システムの効果を実証します。

（4）アニマルウェルフェア対応型の飼育技術の開発

- ・牛床マットの改良による快適な繋ぎ飼い方式の有効性を実証します。
- ・繁殖雌豚の妊娠期における群飼育と授乳期の母豚の行動範囲を高めた分娩房による飼養管理技術を開発します。
- ・アニマルウェルフェアに配慮した鶏の飼育施設整備を進め、生産性に影響を与えない技術を開発します。

2 生産現場の課題を解決するための技術開発

- ・ゲノミック評価と受精卵移植技術を活用して枝肉重量と脂肪交雑に優れた種畜を作出します。
- ・受胎率向上のための体外受精卵の選卵技術や凍結保存法を開発します。
- ・脂肪交雑やオレイン酸に着目するとともに地域未利用資源を利用したブランド豚肉の生産技術

を開発します。

- ・産卵性能が高く素びなの安定供給が可能な「信州黄金シャモ」母鶏種の組み合わせ評価を実施します。
- ・生体内卵子吸引一体外受精(OPU-IVF)による効率的な体外受精卵の生産技術を開発します。
- ・交雑種レシピエントを用いた黒毛和種子牛の高増体育成技術を開発します。
- ・多産系母豚の離乳頭数を向上する飼養管理技術を開発します。
- ・硝酸態窒素が蓄積しにくく、牧草的な利用ができる多年生スーダングラスの系統の育種に着手します。
- ・自給率向上に向けた子実用とうもろこしの良品質安定生産技術を確立します。

3 組織の活性化、県民や関係団体など産官学の連携・協働、その他独自の取組

- (1) 場全体で家畜伝染病防疫の意識を共有し、徹底した病原体の侵入防止対策に取り組みます。
- (2) 国県の研究機関や大学、企業などと連携して先進的な研究開発に努めます。
 - ・生産者、畜産機器メーカーと積極的に連携し、先進的な家畜の飼養技術を開発します。
 - ・研究連携協定の締結や研究プラットフォームに参画し次世代を見据えた研究開発を行います。
- (3) 成果の積極的な情報発信に努め、普及組織と協働して農家への技術移転を進めます。
 - ・成果にこだわり、得られた成果が県民に見えるよう積極的な情報発信を行います。
- (4) 県民に信頼されるようコンプライアンスを推進し、職員一人一人が自己研鑽に努めます。
- (5) 試験研究、防疫対応、家畜飼養、飼料生産作業に場全体で部横断的に取り組みます。
- (6) 各畜種において生産成績にこだわり、経営モデルとなる飼養に努めます。